



びらさず

宮城県古川黎明中学校 3 学年通信

平成26年4月15日 文責 奥山 香

中学校3年間のまとめとして、大切な一年がスタートして1週間が経ちました。

新しいクラスに変わったものの、話をしたことのある仲間ばかりですので、始業式の慌ただしい日程にもスムーズに対応することができました。どの生徒も積極的に自分から話しかけ、新しい友人関係を早い段階で築こうとしているように見えました。また、先週は学級便りにも掲載されましたように、係や生徒会専門委員会を短時間で決めることができ、どんなことに対しても常に真剣に取り組んでいる姿が最上級生らしく感じられました。

今年度は、数多くの中学校の思い出を創り上げていく年であり、高校生になるための準備期間としての年です。中高一貫教育6年間の中間点が見え始めてきました。私たち職員も生徒たちが最高学年になった喜びとともに責任を感じ、心をひきしめてこの一年を過ごしていきたいと考えています。昨年度以上に保護者の皆様のご協力を得て、生徒のさらなる成長のためにベスト尽くして頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

3 学年職員紹介

学年主任：奥山 香【数学】

A組担任（副主任）：齋藤弘一郎【理科】

B組担任：小野 加蘭【数学】

副担任：小山 鎮（こやま まもる）【英語】

（一言）美里町在住の小山と申します。英語担当です。国際交流活動のボランティアをしています。多くの趣味を指導に生かし、生徒一人一人が将来のことを真剣に考えられるよう導いていきたいと思っております。



●始業式に三学年代表で挨拶を行った、3年B組本田爽馬くんの発表を紹介します。

古川黎明中学校に入学してから早二年。ついに僕たち8期生も中学校生活最後の年を迎えます。それに伴い、最上級生として学校をまとめ上げなければいけません。そんなこの一年を充実した年にするために、心がけていかなければいけないことがあります。

まず、最上級生の自覚というものが重要だと思えます。昨年是一年生のときの後輩という立場から、行動や言動に責任をもてる先輩として成長することができました。一方で、先輩として上にいる三年生について甘えてしまうという部分も多く見られました。しかし、三年生となった今、先輩に頼るといことはできません。また、210人と増える後輩たちをまとめ、支え、引っ張っていかなければなりません。一人一人が後輩だけでなく、学校をまとめ上げていくリーダーとして手本となる行動ができるよう先輩としての心がけを忘れないようにしていきたいと思えます。

次に、高校生に向けての準備をするということです。三年生になったということは、中学最上級生となると同時に、卒業まで一年を切ったということになります。そして、卒業すればみんな高校生として新たなステージに立つこととなります。それまでのこの一年、高校生に向けてしっかりと準備していかなければなりません。しかし、昨年は課題の未提出や授業での忘れ物が目立つようになり、授業中の集中も欠けていたように思えます。高校では勉強が今よりも一段と難しくなり、授業や課題への取り組みも厳しく見られます。その中で、しっかりとした成績を残すためにも今の内から悪い点や弱点の改善に努めていこうと思えます。その他にも、高校へ向けて直さなければいけない部分があり、それは一人一人違ってきます。その一人一人違う改善点を卒業するときには、ゼロにできるようにしたいと思えます。

今年は黎明祭や体育祭など全ての行事に中学校生活最後のという言葉がつきます。中学校生活最後の一年を悔いなく笑って終わられるよう、今言ったことなどを心がけて生活を送りたいと思えます。苦しいときや辛いときでも僕たち8期生らしく明るく、全員で助け合いながら乗り越え、楽しく充実した一年にしていきたいです。